

「無限の可能性を秘めた沖縄の観光」

沖縄県立那覇国際高等学校 3年生 渡久地 結

青い海に青い空。私の大好きな故郷の島沖縄県。最近は那覇の街でも観光客を目にすることが多くなりました。

沖縄の観光産業は県のリーディング産業としても位置付けられており、県の統計資料によれば、昨年沖縄を訪れた入域観光客数は、初の七百万人台に到達したそうです。

豊かな自然やのんびりとした空間を求めて沖縄を訪れる観光客は多いと思います。しかし、沖縄と同じような観光資源を持つ地域は、ハワイやタヒチ、モルディブなど世界各地に存在し、いつかは沖縄の観光産業にも発展の限界が来るのかもしれない。

私は、この発展の限界を「人と人の文化交流を生かした観光」によって、無限の可能性に変えることができるのではないかと考えます。

沖縄にはエイサーや三線、空手や琉球舞踊など世界のどこにもない、素晴らしい文化が数多く存在します。それらは、今から七十年前のあの沖縄戦で、多くのものが失われた中でも、現在に至るまで大切に受け継がれてきたものでもあります。それらの文化を、人と人の交流を通して伝えていくことは、私たちにしかできない、これからの沖縄の観光産業を支える大きなカギになると思います。

今年の三月、私は修学旅行でマレーシアを訪れました。マレーシアでは、一般家庭にホームビジットをするという機会に恵まれました。受け入れてくださった家族の皆さんは、とても笑顔がステキな方達で、見ず知らずの私たちに対して、フレンドリーに話しをしてくれました。おいしい料理をふるまってくれ、民族衣装も着けさせてもらい、マレーシア伝統の遊びも教えてもらいました。どれもが日本では体験することのできないマレーシアならではの文化であり、とても貴重な異文化体験になったとともに、マレーシアでの文化交流は、人の温かさに触れ、私を「いつかまた、もう一度ここに来たい」そんな気持ちにさせてくれました。

マレーシアでの体験だけでなく、家族旅行の経験からも同じようなことが言えます。私の家族は旅が好きで、これまでに県外の多くの場所を訪れました。観光地を回るだけでも、もちろん旅の思い出にはなります。しかし、何年か経ってその時のことを振り返ると、いつも真っ先に私の頭の中に浮かぶのは、現地の人との交流や、その際に学んだその土地ならではの文化でした。そして、

その旅で出会った人々への思いが「もう一度あの地を訪れたい」という私の気持ちを強くする、一番の要因であることに気が付きました。

これらの経験から、さらなる沖縄観光の発展のためには、人と人との交流を通して沖縄独自の文化を伝えていくことが、必要不可欠であると私は考えます。

具体的には、毎年、県内各地で地域ごとに行われている祭りを、自分たちだけの楽しみで終わらせず、観光客にも楽しんでもらえるよう、沖縄の伝統的なエイサーや、カチャーシーをその場にいる人全員で踊る機会を設ける、三線などの伝統的な楽器にふれさせる機会を設けるというのはいかがでしょうか。一工夫するだけで、観光客にとってはそれが非日常のこととなり、旅の素晴らしい思い出になると思います。また、各地域でのイベントには、もちろんその地域の人々も多く参加するので、観光客と地域の人々との交流に繋がると思うのです。そしてその交流によって生まれた絆は、旅を終えて何年か経って、観光客が沖縄観光を振り返った時に、「また沖縄を訪れたい」と思うきっかけになると思うのです。

私たちウチナーンチュが、観光客との交流を通して芸能文化を伝え、また来たいと思える体験をさせることが、沖縄の観光産業の発展に繋がっていくのだと思います。

そして、私が考える「人と人との交流を通じた観光」は、人と人との相互理解に繋がり、それぞれの良さを認め合う心が、平和な世界を作る第一歩に繋がるのではないのでしょうか。

私の将来の夢は、大好きなこの島を、観光を通して平和の発信地にしていくことです。

この夢を実現する為に、沖縄の素晴らしい文化を世界中の人に伝えるために、私はこれから多くのことを学んでいきたいです。

沖縄にしかできない、新たな観光のあり方を追い求めて…